



去る 2006 年 5 月 15 日～16 日の 2 日間に渡り、フランスはパリの OECD 事務局において開催された PEM 専門家会合に出席した。PEM とは Policy Evaluation Model (かつては Policy Evaluation Matrix であったが変更された。)の略称である。PEM は OECD 各国の農業政策等を評価するための部分均衡モデルとして開発された。PEM は現時点で穀物モデルと酪農モデルが開発されたが、さらに年々改良が加えられている。今回の会合では今後の PEM の改善等について専門家による討議が行われた。以下では同会合で討議された内容の一部を報告する。

まず今後 PEM の改善方向として、EU の農業政策の改革、シングルファームペイメントの導入の効果分析、モデルのパラメーターや EU 拡大に伴う集計データの扱いなど、特に重要データの改善、懸案となっている PEM の牛肉モデルの開発と導入、そしてデカップリングの分析に必要な農地の供給分析の問題を念頭に置いた PEM の改善と分析を進めたいという旨の報告が OECD 事務局よりあった。

PEM の参加国はその開発以来、ほとんど変わっておらず、分析参加国が増えないのは問題の 1 つであったが、韓国が 2006 年から 2007 年にかけて、韓国農村経済研究院 (KREI) のチームと事務局のアドミニストレータが中心となって、韓国の PEM モデルを開発することとなり、韓国農業の概要とモデル開発の計画が披露された。

韓国モデルはコメ、肉牛、酪農の 3 部門の開発を予定している。小麦等のその他穀物類のモデルの開発予定は現時点ではないが、

PEM モデルが畜産部門と穀物部門の飼料供給を通じたリンクを計画していることを鑑みれば、あるいはその他の穀物部門のモデリングも行われるかもしれない。

報告では韓国農業の中でも高いウェイトを占めているコメ、肉牛、酪農が現在も衰退傾向を示していること、ミニマムアクセスの増大や TRQ の枠の拡大によって今後も輸入が増大する可能性が高いという見通しが説明された。モデルに必要なパラメーターはアグリリンクやこれまでの計量分析のレビューから入手する。なお、韓国のコメモデルは日本のモデルを参考にして作成されとのことであった。

EU の加盟国拡大に伴い、PEM における EU のデータの更新やモデルの見直しが必要となるが、PEM に似た部分均衡モデルで、チェコ農業を分析したモデル (PEM-CR-9K) がその開発者により説明された。対象農産品は小麦や生乳、牛肉をはじめとする 9 品目からなる。モデル自体は必ずしも PEM と同じではないが、本質的には同じようなモデルであるといえる。しかし、チェコ農業のデータの利用可能性については、必ずしも信頼できるデータソースがなく、データがどこまで利用できるかなどが問題である。

PEM モデルにおいて牛肉、酪農部門と穀物部門の飼料を通じたリンクをどのように行うのかという問題が課題となっている。穀物部門の需要には、食用の需要のほか、肉牛と酪農部門の飼料向けの需要も含まれる。自給飼料のための牧草地は肉牛向けと酪農向けに分けることは困難である。濃厚飼料の供給は、小麦、粗粒穀物、油糧種子等の穀物類と資本を投入して生産されると仮定している。しかし重要な要素間の代替の弾力性については適当な値を仮置きである。